

初めて授業で地図帳を手にしたら？ ～地図帳のよさに気づく学習展開～

秋田県秋田市立土崎南小学校 鈴木 公平

1 はじめに

4年生になり、子どもたちは初めて地図帳を手にする。子どもたちの目はキラキラし、地図帳の中身に期待がふくらんでいるようすがうかがえる。5年・6年生になっても活用していく地図帳との出会いを大切に、子どもたちが地図帳を通して楽しく学び、地図帳のよさに気づけるような実践を心がけたい。

2 県の形や位置をとらえる

「わたしたちの住んでいる秋田県は、どんな形をしているか？」を子どもたちに問いかけてみた。「うーん。どんな形だったけ。」「たしか、この辺が出っ張っていたような。」などと苦戦しているようすが見られた。中には、あまりにも細かくかこうとして、かえて全体像をとらえられない子どももいた。

県の概観をとらえるのであれば、副読本を用いてもわかるが、日本の中での秋田県の位置もとらえさせたいと考え、地図帳（帝国書院『楽しく学ぶ小学生の地図帳』（初訂版））の最初のページ「都道府県の区分」を活用した。

はじめに、秋田県を見つけさせ、しっかり色をぬらせた。その後、気づいたことを自由に発表させた。「ぼくは、〇〇県に行ったことがあるよ。」「秋田県の形は、横顔みたいだなあ。」「〇〇県の形が〇〇みたいだよ。」

子どもたちは形や位置などに注目し、地図帳から新たな発見を次々にしていた。



3 県のようにくわしく調べるために

続いて、秋田県についてもっとくわしくかかっているページを自由に探させてみた。秋田県は、地図帳の中では折り込みのページの中にあるので、ページをめくるだけでは、簡単には見つけにくい。きっと探すのに苦労するのではないかと予想した。

しかし、子どもたちは、「都道府県の区分」の東北地方→p.40～42の記述や「もくじ」を手がかりに自分たちの力で秋田県の地図を探し当てることができていた。このように地図帳の工夫を自分の力で見つけることにより、子どもたちは、地図帳のよさや便利さを体感することができていたようであった。

4 地形の特色をとらえる

県のように調べる学習では、はじめに地形の特色を調べる活動がある。「奥羽山脈」「出羽山地」「横手盆地」「秋田平野」など、地形の用語は、子どもたちにとって初めて出会う言葉であり、イメージをつかみにくい。

そこで、地図帳p.57「わたしたちの国土－地形－ ①さまざまな地形－模式図－」を活用した。この模式図は、地形のようすを視覚的にとらえることができ、用語にも簡単な説明がついており、子どもたちには、とてもわかりやすいと好評であった。



『小学校の地図帳』（初訂版） p.57

5 おわりに

地図帳は、国土についての情報がぎっしりつまった宝箱のようなものである。地図帳のよさを伝え、いつでも地図帳を活用していきける子どもの育成を今後も目指していきたい。